２６「遠野国産材まつり」１０年の歩み

遠野営林署　○ 成田　種彦
漆沢　素介
八鍬　昌春
別所　正彬
古舘　英二

1　はじめに

「遠野国産材まつり」は、遠野地方から生産される地元産材の優秀性を広く一般にＰＲするとともに、建設業者、工務店等へ、ダイレクトに働きかけ、販路の拡大を図る目的で、我が遠野営林署が中心となり、地域の自治体、団体、業界と一緒になって実施してきた林業・林産業の一大イベントである。

この「まつり」は、昭和５８年から一度も休むことなく、平成４年で１０回を数え、今や遠野地方における恒例の「秋まつり」として親しまれる行事となり、今年度も、盛大に開催できたので、今まで取り組んできた概要と成果について報告する。

2　遠野地方における林業・林産業の現状

遠野市は、高原状を呈している北上山地の山々に囲まれた町であり、森林率は、84％を占めている。また、旧くからの造林の歴史があり、したがって、人工林率は56％（国有林は６１％）となっており、地域的には、全国又は県平均に先立って国産材時代を迎えることになる。

そのため、遠野地方の特徴を踏まえた林産物の安定生産・安定供給、銘柄化の確立等へ向けての取り組みが急務となっている。

特に、国有林は、１００余年の沿革と技術を有しており、高齢林からの優良材供給が期待されている。

遠野地方の素材生産量は、官民合わせて年１０万㎥　にも及び、また、製材用素材の需要量は約５万㎥　と推定されている。この内、国産材の占める比率は92％となっており、国産材についても地域外からの移入はほとんどなく地場産材が主である。

地域においては、林業構造改善事業をはじめとする地域指定がなされ各種の補助事業が推進されているが、なお、素材、製材ともに売手市場として活性化することが望まれる。

このような実態の中から、「国産材まつり」は遠野営林署が地域の官民に呼びかけ

たイベントであり、年々充実しながら定着してきているのである。

3　国産材まつり１０年の経緯

(1)　国産材まつり参加団体等

「国産材まつり」は、遠野営林署が提唱し営林署員が主体となって実行してきた行事であるが、地域との一体性を重んじ、主催団体については交替制としている。(表－１)

紙面の都合上、抜粋して報告するが、第１回から第９回までは、遠野製材業協同組合（製材協)、遠野地区国有林材生産協同組合（国生協）、遠野素材生産協同組合（素生協）、の各協同組合が輪番制で主催団体となり、第１０回は、遠野地方森林組合が主催した。第１回の総参加団体等は７団体、回を追って増え第９回からは１１団体となっている。また、表以外に任意の木材加工業、造園業等からの協力も得ている。

表－１　　開催回（抜粋）別参加団体

開催回（年）		１（昭５８）	５（昭６２）	９（平　３）	１０（平４）
同時開催イベント		遠野まつり	遠野まつり	遠野まつり	産業まつり
主　催　団　体		製材協	国生協	素生協	森林組合
協賛・後援団体等	遠野営林署	◎	◎	◎	◎
	遠野地方振興局			○	○
	遠　野　市	○	○	○	○
	遠野地方森林組合	○	○	○	― ― ―
	遠野製材業協同組合	― ― ―	○	○	○
	遠野地区国有林材生産協同組合	○	― ― ―	○	○
	遠野地区造林請負協同組合		○	○	○
	遠野素材生産協同組合	○	○	― ― ―	○
	遠野木材加工事業協同組合			○	○
	遠野地方林業振興協議会	○	○	○	○
	株式会社リンデンバウム			○	○
いわて林業祭参加				◎	◎

(2)　国産材まつりの内容の推移

遠野国産材まつりを実行するに当たり、最初にスローガンが決められる。平成４年のスローガンは、「ほのぼのと民話の息づく遠野材」。スローガンの趣旨にしたがって以下のまつりが展開される。

①　特別な出展項目

「まつり」を盛り上げるため、それぞれの団体は、アイデアを提言し、それを「国産材まつり」に展示する。　（表－２）

表－２　開催回（抜粋）別出展項目

その１　特別な出展項目

1（昭和５８年）	5（昭和６２年）	9（平成 3年）	10（平成 4年）
◎ 遠野産カラマツ製品の愛称懸賞募集 ◎「遠野紅唐」に決定 ・ 住宅新改増築相談コーナー 融資相談　市内各銀行 ・ 虹鱒の試食会	・ 木の文化展（ウッドコミニュケーションタウン）	・ 製材のＪＡＳ規格説明展（規格製品展示） ・ 木造建築模型の展示 ・ 樹種当てクイズ	・ 木製サンルーム展示 ・ 遠野の自然・森林・林業クイズ

注、　◎印は、遠野営林署が分担した項目。

② 国産材まつりの共通する出展項目

このイベントの主目的は、遠野地区の林産物の需要の活性化にある。　ただし、

表－３　開催回（抜粋）別出展項目

その２　共通する出展項目

		1（昭５８）	5（昭６２）	9（平 3）	10（平 4）
展示・即売	素材・製材	○	○	○	○
	銘木・銘石	○	○	○	○
	緑化木	○		○	○
	木工品・工芸品		◎	◎	◎
	林業機械器具			○	○
	木炭（恩徳手作り村）			◎	◎
	細丸太単価販売			◎	
	特用林産（きのこ）	○	○	○	○
	山野草・草花			◎	◎
無料配布	苗木・庭木	◎	◎	◎	◎
	木工品	◎			
ＰＲ	森林・林業パネル展	○		○	○
	分収育林			◎	◎
	二次加工製品（展示・注文販売）				○
体験・学習	木工広場		◎	◎	◎
	空中写真				◎

注、　○印は、遠野営林署が分担した項目。

（表-3）にあるとおり共通するそれぞれの出展項目は、多岐多様にわたっている。

③　「まつり」としての国産材まつり

「遠野国産材まつり」は、遠野においては、今や地域のまつりとなっている。地域住民との連携に成り立っていると考えて差し支えない。獅子舞い、神楽踊りなど郷土芸能グループが、我々の「まつり」を盛り上げてくれる。

「国産材まつり」は、「まつり」としての効果を高めるため独立性を保ちながら遠野市のまつりと同時開催としている。　（表－１）

(3)　「いわて林業祭」への参加

この行事は、平成２年度から「いわて林業祭」への協賛行事として好評を得ている。（表－１）

4　国産材まつり以後の地域の動向

「国産材まつり」の第１回の特別出展に「遠野カラマツ製品」の愛称募集を行った。審査の結果、「遠野紅唐」が選ばれ、ブランド化的に地域内外に知られるようになった。カラマツだけでなくその他の樹種についても波及効果が及んでいると考えられる。

(1)　遠野市内の公共施設の木造化

（表－４）により、「国産材まつり」第１回以降の主な公共施設の木造化の概要を示すこととする。カラマツ、スギの公共施設への使用が伺われる。

表－４　　主な公共施設の木造化

完成年月	施　設　名	延面積（㎡）	樹種（多い順）	材積（㎥）
59. 12	高齢者センター	288	からまつ	47
60. 2	総合福祉センター	1.850	からまつ、ひのき	122
60. 8	八幡墓園管理棟	66	からまつ	21
60. 10	岩滝保育園	440	からまつ、すぎ、ひのき、	81
62. 12	綾織中学校（校舎、体育館）	2.405	からまつ、集成材、すぎ、ひのき、けやき、	505
63. 2	上郷中学校（校舎、体育館）	3.172	すぎ、からまつ、集成材、	1.024
63. 12	青笹中学校（校舎、体育館）	3.067	からまつ、すぎ、集成材、ひば、ひのき、	632
2. 1	附馬牛中学校（校舎、体育館）	1.918	すぎ、からまつ、集成材、ひのき、	672
3. 8	遠野中学校（第二体育館）	1.980	集成材、　からまつ、	175
4.	土淵中学校（校舎、体育館）		（建設中）	

1）　材積は、構造材、造作材の合計。

2）　集成材の原材料は、主にからまつ、一部とどまつ。

3）　上記施設の樹種別材積の内訳（４年度を除く）、からまつ1.470、すぎ1.122、集成材607
ひのき52、ひば27、けやき1、（単位㎥）

(2) 地域（民間等）における動き

（表－５）は、民間等における国産材に関する主な地域の動向を拾ったものである。「遠野紅唐」選定以来、地元国産材の利用拡大への努力、意欲の向上は失われてはいないと考えられる。

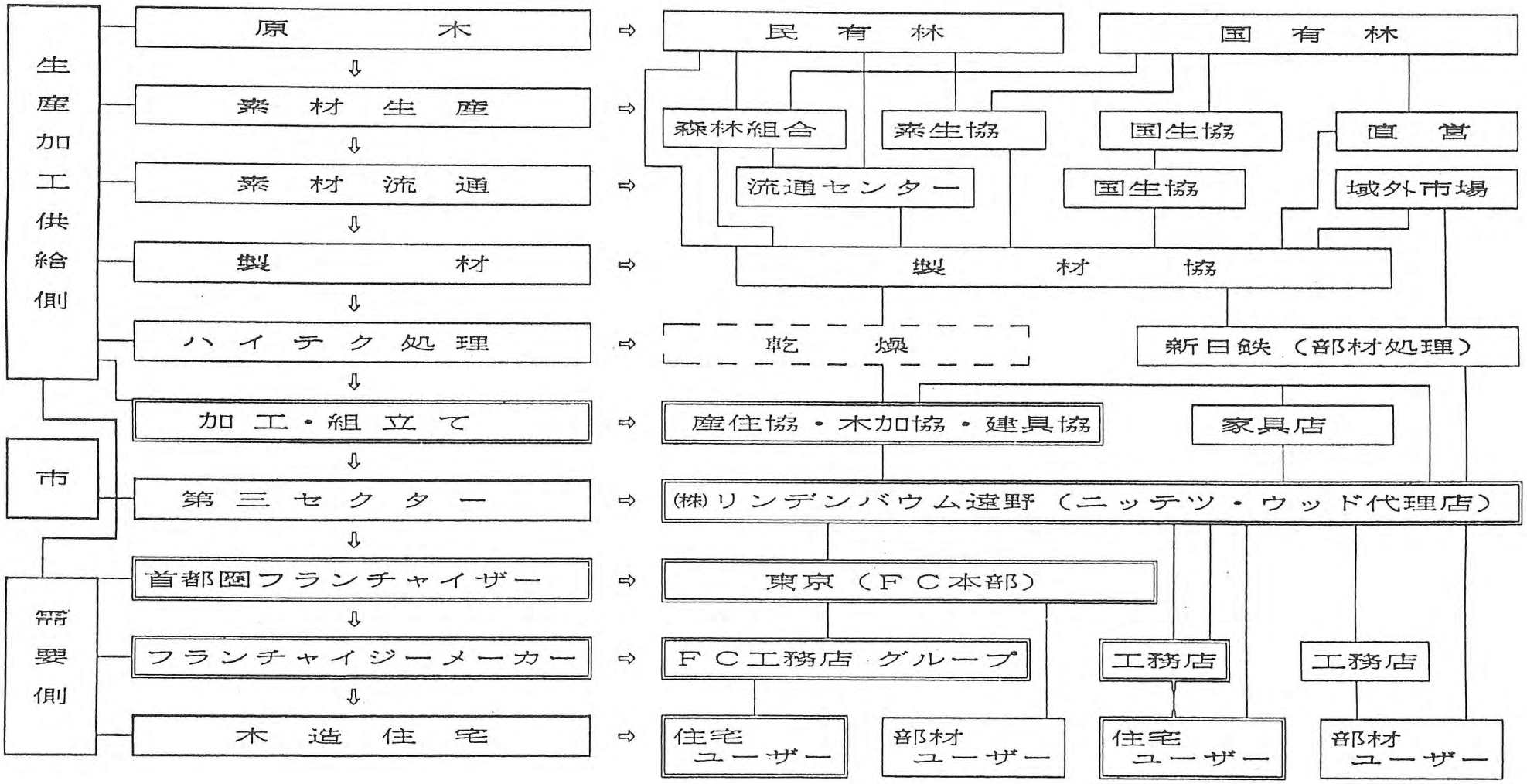
表－５　国産材についての主な地域の動向

年　月	特徴的な動き	説　　明	備　　考
５９、	恩徳手作り村の会	木炭、観光土産用炭俵・樽の製作	営林署員のアイデア提供、指導助言 テレビ全国放映、６３年度業務研究発表 （林友記者会賞受賞）
５９、　１２	工芸の里づくり推進	伝統的技術に新たな工芸技術を取り入れ、オーダー受注を目標としたクラフトの研究開発	署員有志による一般市民としての参加 各種イベントへの協力
６０～	町並み形成事業 （大工町通り）	遠野市のＨＯＰＥ計画（建設省が推進する「地域固有の環境を具備した住まいづくり」による木材をふんだんに使った市民の手による街づくり 国有林から生産した「遠野紅唐」が注目されている	建物、歩道、塀、街灯、（柱・腕木） 電話ボックス、ごみ箱、告知板など （地場産材活用モデル事業）
６３	遠野木材加工事業協同組合の設立	遠野産直材の需要拡大し、付加価値を高め、木材生産から工務店までの一貫体制の確立（９企業体）	①　人工乾燥施設 ②　プレカット加工 従来、手加工で刻んでいた建物の軸組部材の継手、仕口の加工を機械で行う ③　モルダー加工 建築物の細微なも木製品の品質管理（４面仕上げ、ムラ取り等）を一工程で行う工法
６３～Ｈ２	駅前周辺施設	バス、タクシー乗り場等	「遠野紅唐」を使用した集成材 三井木材
Ｈ２　　６	福泉寺五重の塔完成	すべて「青森ヒバ」を使用	遠野の新しい観光名所。仏像（マツ） 多宝塔（ヒバ）とともに寺のシンボルとなっている
Ｈ２　　７	第三セクター「株式会社リンデンバウム」の設立	在来木造軸組工法「遠野住宅」を遠野市からダイレクトに首都圏向けに供給するシステムの開発	出資者は遠野市など５０企業団体。 素材生産からいわゆる建前までを分担 樹脂注入については、ニッテツウッド（釜石）と提供
Ｈ３　　１１	「遠野住宅」モデルハウス展示	遠野市内、盛岡圏（紫波町）	林野庁および建設省地域指定関連事業
Ｈ４　　７	三陸博覧会	「遠野紅唐」（ニッテツウッド樹脂注入材使用の案内所、市町村旗掲揚ポール）の納入	
Ｈ４～	流域管理システムのスタート	北上川中流流域活性化協議会及び同流域管理センターの発足	遠野地方振興局管内
Ｈ４～	いわゆる木材団地（林材業集積基地）の建設の多方面からの検討	原木ストックヤード、製材工場、加工工場（プレカット、パネル、樹脂注入）集成材工場、製品市場家具木工工場の団地化	産地形成型林業構造改善事業

(3) 国有林としての役割

（図－１）は、ある企業体の木材の流れの仕組みの概念を示したものである。国有林、民有林の原木供給から、当該企業体を経由して最終需要者までの相互の関連をみるこ

図－１　　木材の需要と供給の流れ
（第三セクター、「リンデンバウム遠野」の例）



とができる。国有林の側としても、生産のみを考えることなく、流通の過程すべてを考えながら、相互の理解を深める必要があろう。首都圏の木材住宅に遠野の木が使われている。そして、使って欲しいと願ってイベントを進めている。

5　「国産材まつり」などにおける営林署員の対応

(1)「国産材まつり」の出展項目のうち、遠野営林署が分担した項目は、表－2、表－3に示した◎印に該当するものである。

①　木工品の展示即売、②　細丸太の単価即売、③　山野草の即売、④　恩徳森林の手作り村への協力支援などなど。

市民が、最も期待を寄せている一つは、苗木のプレゼントである。営林署員は、当然ながら、配布のかたわら、樹種の特性、育て方、管理の方法についての指導に携わることになる。

(2)　森林、林業、林産業、自然環境のＰＲについても、「国産材まつり」の目玉である。分収育林コーナー、木工教室（広場）、空中写真による国有林の森林施業の観察などを営林署員が分担する。

(3)「国産材まつり」は、「祝日」「休日」にかち合うため障害が伴う。「国産材まつり」は、当日だけでなく、事前の準備、事後の処理等の外、当日の裏方的務めも必要となる。　このため、署長以下署員一致協力して取り組んでいる。

(4)　このような「国産材まつり」に対しての取り組みは好評を得ている。最近、住民の手作りまつりへ移行する傾向が強く、平成４年度においては、「田瀬湖湖水まつり」をはじめ「上郷まつり」、「小友巌龍まつり」、「水光園まつり」などのイベント実行委員会からの要請に応え木工教室、丸太切り競争、分収育林コーナーなどは、いまや、これらのイベントのメイーン的存在となっている。

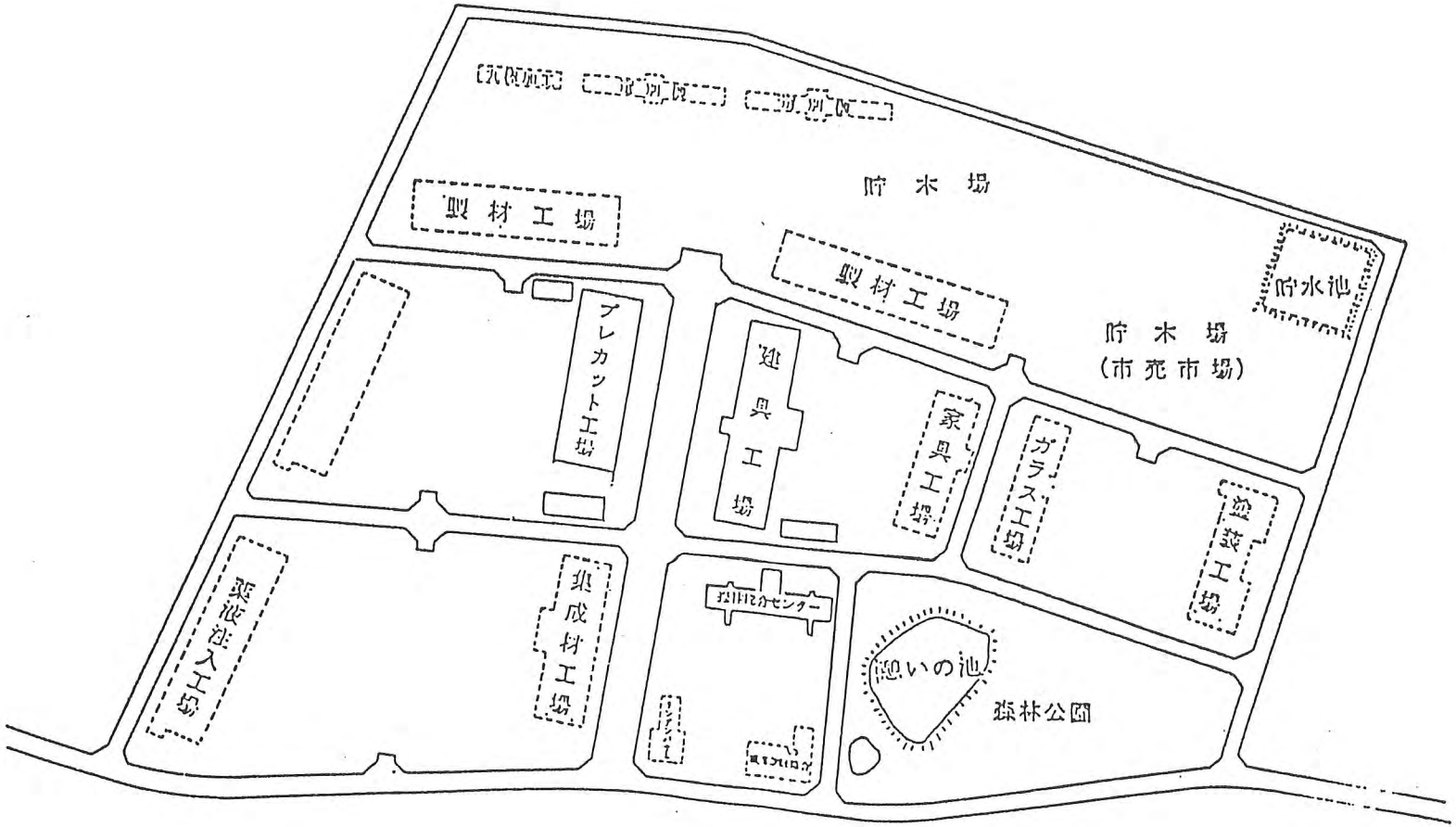
6　「国産材まつり」の今後の課題

現在の林業、林産業の厳しい現状の中で、ここ遠野においては、比較的豊富な資源と兼業型の労働力に支えられて、それぞれの問題を抱えつつも現状を維持し、かつ、多方面からの試行、模索が行われている。

平成４年度においては、振興局単位ではあるが流域管理システムがスタートし、流域林業の活性化へ向けての協議が始動し、流域林業活性化センターが活動を起こした。

一方、新しい林業構造改善事業の指定を受けて、木工団地建設（図－２）の構想が立てられ、（表－５）の最下段に示されているとおりの原木の集積から最終加工施設までの、大規模な基地づくりが検討されている。

図－２　林材業集積基地（木工団地）構想図



国産材時代をいち早く迎えようとしている当地域にあっては、「国産材まつり」の10年間の歩みは、貴重な経験となるだろう。今後は、時代の変化に呼応した「まつり」のあり方を研究し、地域の林業、林産業の発展に役立つイベントとして、さらに継続していくことを申し合わせているところである。

7　おわりに

平成４年の「国産材まつり」の後、岩手日報のコラム記事「時評」欄に、次のとり紹介された。

「・・・・・　遠野地区国産材まつりが遠野営林署事業所広場と市民センター体育館を会場に開かれた。木の良さを見直し、暮らしに生かしてもらおうとの願いを込めた「まつり」である。

遠野市は、北上山系のほぼ中央に広がる盆地で、周囲の山々を中心に杉、唐松、ケヤキ、ヒノキ、などが産出される。これらの利用、活用は遠野地方の活性化に弾みをもたらすことは言うまでもない。

まつりは１７、１８の両日開催され、地元産の木材、製材品、木工品、木炭などが展示されたほか、親と子の木工教室も開設、子供達が巣箱作りなどに取り組む姿は一生懸命で、楽しそうでもあった。

木の良さは香りもあるし温かい感触もある。ソフトな感覚は気持ちを和らげてくれる。木の良さを知ることで木や森を大事にする心が芽生えるだろうし、緑化への関心もたかまるに違いない。まつりではアカエゾマツとサルスベリの苗木約５００本が無料配布されたが、新たな緑化への援軍としたい。　まつりは今年で１０回目である。木の復権へ頑張ってほしいと思う。」

市民の目から見た評価として受け止めたい。「国産材まつり」の主目的は、国産材の需要拡大にあるが、地域のまつりとしてのイベント性も無視できない。　今までの経験を活かし多くの期待に沿う「まつり」となるように、そして地域の産業の発展のために今後も努力していきたい。